

番号	項目	評価規準	教員評価平均	道教委評価基準	現状分析・改善策等	評価の適切さ	分析・改善策の適切さ	
1 2 3 4 5	学習指導	【基礎学力】授業における基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着。	PDCAサイクルに基づく「分かる授業」の実践およびそれに係る組織的な研修を進めることができたか。	2.75	B	スタディサプリなどを活用して、配信は続けたものの、全生徒の学習の定着にはつなげられなかった。改善のためにも、「なぜ学ぶか。どう学ぶか。学んで何ができるようになるか」の働きかけが必要である。 一人一台端末の活用については、教職員の校務において活用することができた。具体的にはGoogleフォームによるアンケート集計やGoogleクラスマームによる情報共有、Googleチャットなどを使って業務の推進を図った。結果として少しづつ校務のICT活用は進捗し始めている。一方でそれをどう授業に落とし込んでいくかが今後の課題である。校内のWi-Fi配置が適切ではないことが一つの原因である。そのため、次年度校内委員会を通じて適切なオンライン環境を整える。	A (AAAB)	A (AABB)
		【探究】主体的・対話的で深い学び、探究的な学びの推進。	各教科科目、総合的な探究の時間等で探究的な学習活動の実践の工夫やそれに係る組織的な研修が進められたか。	2.81	B	これまで、いわゆるテスト偏重の学習評価が続いてきたが、本校の特色や入学生の多様な実態、身につけさせるべき資質能力を総合的に勘案し、次年度から定期考査を廃止し、単元ごとの多面的な評価によって生徒の学習評価を行うこととした。これにより、学習者主体の授業改善の足がかりとしたい。		
		【学習習慣】生徒の学習習慣定着に資する効果的な取組の継続。	個別の課題やスタディサプリ等の学習機会を活用し、自學習慣の定着を促すことができたか。	2.44	C			
		【ICT】授業での効果的なICT活用の推進。	一人一台端末を活用した授業方法を研究し、活用することができたか。	2.38	C			
		【教育課程改善】地域・学校・生徒等の実態に即した教育課程見直しの実施。	現状を的確に把握し、教育課程実施上の課題を共有/検討した上で、組織的に改善への検討を進めることができたか。	2.69	B			
6 7 8 9	生徒指導	【支援的生徒指導体制】生徒情報の共有、家庭、関係機関等との連携による支援的な生徒指導体制の確立。	定期的に生徒理解研修会を実施し、保護者や関係機関との連携により支援的な生徒指導と家庭教育の支援を行なうことができたか。	2.69	B	今年度積極的生徒指導の基礎作りとして分掌部長を若手に任せ、道徳教育の研修や校内巡回の呼びかけなど積極的に実施した。年次によって落ち着かない生徒もいたことから、昨年度よりも特別指導の件数は多くなってしまった。一方でこれらの反省点を元に、次年度はより一層の生徒指導の積極的推進を図ることとしたい。言って聞かせる指導ではなく自ら考えるようにするための指導が求められるため、教職員が個別裁量で指導するのではなく、組織的に生徒の内なるモチベーションを高める指導を目指す。情報モラルに関する啓発活動は実施してきたが、生徒がSNSに自分の様子や他人の画像を掲載してしまうなどの問題は散見された。次年度、通信やホームルーム指導、講話等を通じて啓発活動を強化する。	A (AAAB)	A (AABB)
		【いじめの防止】いじめの未然防止、早期発見、早期対応によるいじめの根絶。	いじめ防止対策委員会等での定期的な情報共有により、積極的に生徒の状況把握に努め迅速かつ組織的な対応を図ることができたか。	3.13	B			
		【情報モラル】情報モラルに関する指導を通じ、情報社会に主体的に関わる態度の育成。	情報モラルに関する啓発活動や日常的な指導をとおして、情報活用能力の育成を図ることができたか。	2.81	B	【参考】令和6年度のいじめ防止対策委員会開催回数 6回 いじめ認知件数8件(12月時点3件解消・年度末ですべて解消) いじめ認知に関しては委員会による組織的対応を通じて、本人の訴えを最優先に規定に基づいて客観的に判断しているが、思い込みによるものや物理的な被害が確認できないこともあるため判断が難しい部分もある。		
		【道徳性の涵養】人間としての在り方生き方を考え、主体的に判断・行動し、自立した人間としてより良く生きるために道徳性を養う	道徳教育全体計画に基づき、全ての教育活動の中で、人間としての在り方生き方について考える機会を作ることができたか。	2.88	B			
		【系統的な進路指導】キャリア教育全体計画に基づく系統的な進路指導の実現。	年間計画に基づいた進路学習、探究学習等の取組が効果的に実施され、生徒の主体的な進路意識を高めることができたか。	3.50	A	今年度の進路実績については非常に健闘し、例年及び例年以上の成果を出すことができている。(国公立:帯広畜産大学、宇都宮大学、北見工大、釧路公立大 私大: 札幌学院大、北翔大、北海道情報大、酪農学園大、北星学園大、藤女子大、札幌国際大、東京経済大、大阪経済大、神田外国语大)		
10 11 12 13	進路指導	【ガイダンス機能】生徒一人ひとりへのきめ細かなキャリアガイダンスの実施。	進路に関わる体験活動、相談活動等の計画的な実施を通して、有効な進路情報の発信・提供ができ、進路に関わる学習の成果が見られたか。	3.38	A	本校は総合学科として、生徒がこれまで実践してきたゼミ活動や興味関心に応じて授業を選択できる特色から総合型選抜(AO・推薦)によって合格実績を上げているが、今年度は一般受験でも国立大学への合格者を出している。一方で、特色の一つである農業科目を多く取り入れているものの、生徒の進路希望に農業系の選択肢はあまり見受けられない傾向が続いている。家業継承等に関わり本校を志望する生徒は少ない。多様な進路に応じた教育課程が特色の総合学科であるが、最近の傾向は進学者が約6~7割となっている。進学を希望する者への学力の担保が課題である。そのためにもオーデマンドを活用した学習環境の整備を行う。	A (AAAA)	A (AAAA)
		【探究学習の充実】「産業社会と人間」「地域探究」「課題探究」の内容充実及び教科指導との連携推進。	各教科科目の探究活動を推進すると共に、課題探究等の取組の過程において、進捗状況を把握し、適切な指導助言を行うことができたか。	3.31	A			
		【コーディネート機能】キャリア教育に係る活動の調整及び外部との円滑な連携の推進。	関係分掌と連携の下、キャリア教育推進に係る活動を積極的にコーディネートすると共に、外部関係機関との連携を円滑に進め、効果的な事業改善を図ることができたか。	3.25	A			
		【生徒理解】生徒理解を図り、迅速かつ組織的に対応できる教育相談体制の充実。	心の悩みを抱えた生徒の状況や対応の仕方について、教員間で共有すると共に、保護者、SC、専門機関等と連携し適切な援助ができたか。	3.13	B	年々、心に不安を抱える生徒や勇断になじめない生徒が多くなっている。鶴野支援学校教諭をパートナーティーチャーとして本校の生徒の実態に助言をいただいている。次年度も同様の体制を整えていく。また、スクールカウンセラーナどの外部機関との連携・教育相談週間の充実を図って心の成長を促すほか、SOSを求めやすくするための相談体制の充実を図っていかたい。今年度は緊急派遣のスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用して生徒の支援に当たることができた。また、道徳教育推進に関する研修会を行い、生徒の心を揺さぶるための仕掛け作りについて学んだ。次年度は生徒との対話の機会を重んじてモチベーションの維持高揚を図る。なお、防犯・交通安全・間バイトに関する講話を実施した。次年度は性に関する学び(講話)も取り入れていく必要がある。		
14 15 16 17	健康・安全指導	【危機管理】安全確保のために必要な事項を実践的に理解させ、生涯を通じて安全な生活を送ることのできる資質・能力の育成。	防犯・防災・交通安全等に関わる取組をとおして、生徒の危機管理に係る適切な判断力と行動力を養うことができたか。	2.94	B		A (AAAB)	A (AABB)
		【命の教育】命を大切にする意識の醸成。	各系列事業や教科科目、特別活動等を通じて、他者を尊重する態度や他の命を大切にする意識を高めることができたか。	3.00	B			
		【健康保持、体力増進】健康で活力ある生活を送ることのできる資質・能力の育成。	生徒の心身の健康状態を的確に把握し、生徒一人一人の特性等に応じた支援を適切に行なうことができたか。	3.13	B			
		【危機管理】学校安全危機管理委員会による安全管理全般に関する管理監督の徹底。	危機管理研修の実施や実習等の安全対策の徹底により、事故の未然防止を図ることができたか。	3.06	B	生徒募集委員会を立ち上げたものの、主たる目的を「地域みらい留学」における道外募集としていたため、ほぼ教頭が担当している。一方では、教頭の持っている生徒募集ノウハウを発揮し、今年度は説明会の内容を刷新。道外中学生への対応も含めたすべての説明会に教頭が参加した。従来の「しへ高フェス」を委員会で企画運営することができなかつこともあり、委員会活用において低評価となつた。ただし、今年度本校はほぼ毎日Webの更新を行い日々の活動をPRすることができた。次年度はSNSを活用した生徒募集・PRに着手する。		
18 19 20 21	信頼される学校づくり	【地域連携】本校の教育資産を活用した地域連携及び地域貢献の推進。	本校の教育資産を活用して、地域との積極的な交流や異校種間連携を推進し、地域を支援・活性化することができたか。	3.19	B	なお、道外からのアプローチは6件(そのうち見学3件、うち1名出願・合格)であった。初年度としては成果をあげたと感じている。他方、町内中学生の獲得には課題がある。次年度は積極的に町内中学生に体験学習やオンラインでの説明会を実施し、アプローチをかける。次年度入学生的なうち標茶町内中学生の割合は久しぶりに50%を超えた(54.5%)。※働き方改革・業務改善等は次の項目で触れる。	A (AAAB)	A (AABB)
		【働き方改革】働き方改革における業務改善と合理化及び分業、意識改革の推進。	業務の改善と合理化・分業化、教職員の意識改革等により働き方改革が促され、職員の月超過勤務時間を45時間以内にすることことができたか。	2.25	C			
		【広報】本校教育活動の外部へのPRの推進。	生徒募集委員会を機能させ、PRを効果的に進められたか。	2.56	B			
		【組織体制】各種事業・行事の適切な教育課程への位置付けと、組織的な分業体制の構築	各種事業の目的が教職員全体で共有され、部長主任、担任等へ業務が集中することなく適切に分業が図られたか。	2.00	C	(働き方改革)本校の現在の教育課程を維持しながら一方で法定の教職員数では限界を迎えており、改善するには①3系列の縮小(2.2系列・2.5系列)・②農業科目の大幅な縮小を念頭に教育課程を編成し直すタイミングにさしかかっている。また、これまででできる教員「任せられる教員」に業務が集中していた側面があり、それを継承した教員が周囲に業務を振ることができず苦労していた。そのほか、多くの業務がダイレクトに教頭に集約されることもあり、教員同士の横つなぎやり、縦の対応になっていた。このことを改善していくために、令和8年度の人事異動・人員配置を踏まえた校内体制を整えていく必要があり、すでに着手している。		
22 23 24	組織運営	【会議等】各種会議、打ち合わせの効果的な実施と学校運営への参画。	会議、打合せ等は積極的かつ建設的に行われ、発案された議案が民主的に議論され、職員会議において共通理解が図られているか。	2.75	B		A (AAAB)	A (AABB)
		【事業検証】分掌・系列・年次を中心とした事業の推進とスクラップアンドビルト。	各種事業が関係組織内で検討され、校務運営委員会の調整機能により、その効果が適切に検証され不断の見直しが行われたか。	2.75	B			
		【全体研修】学校課題に即した有用な全体研修会の設定と実施。	研修を調整する部署を明確にし、有用な研修テーマを設定、計画的かつ効果的な方法で全体研修会を実施できたか。	2.50	B	本校の教員の多忙な実態を改善することができなかつことから、積極的に研修を実施することができなかつた。ただし、今年度は道徳教育研修とICT活用研修を実施した。		
		【新学習指導要領実施に係る研修】教科指導、系列事業に係る校内研修会の設定と活用。	新学習指導要領に係る、教科や系列等での学習指導・評価方法等についての研修が行われ、指導に活かされたか。	2.56	B	一方、服務規律に関しては「飲酒事故事件」「情報漏洩事件」が道内でも目立つことから、職員会議や朝の打合せで積極的に研修を実施した。その結果、服務規律に対する意識は高まっていると思う。今年度はセイフティーラリーにも参加した。次年度も引き続き同様の対応をとっていく。		
25 26 27	教職員の資質向上	【ICT研修】ICT活用に係る組織研修と自己研修の推進。	ICT活用に係る組織的な研修の実施や有益な情報提供により自己研修を促し、ICT活用能力の向上が見られたか。	2.63	B		A (AAAB)	A (AAAB)
		【服務規律】継続的な服務管理と内部牽制の推進。	教育公務員として高い倫理観と服務規律遵守の意識を持続させ、同僚性によりお互いに啓発し合うことができたか。	3.25	A			
28		●本校独自基準 3.2以上で黄色網掛け・2.8未満で青色網掛け						

●道教委の評価基準 ※四捨五入小数点第1位が切り上げでない場合は上位評価

- A 4.0～3.25(達成している)
- B 3.25～2.5(概ね達成している)
- C 2.5～1.75(やや不十分である)
- D 1.75～1.0(不十分である)